



5/26 実施 第1回 小川晶保育ゼミ

R5.6.23 保育センター 発行

本ゼミでは、「子どもを尊重した 0,1,2 歳児の保育」というテーマで1年間学んでいきます。
第1回では、『子どもを尊重する』とは?」「生活の中での子どもの尊重」について学びました。

「子どもを尊重する」とは?

子どもが「尊重されている」と感じられる言動、態度、関わり方をする事。

0, 1, 2歳の時期は、子ども自身が「尊重される」ことを獲得する時期です。例えばオムツ替えの場面では、温かい眼差しで子どもの目を見て「オムツ替えるね」と、おしりふきで拭く前には、「ちょっとヒンヤリするよ」等と言葉を添え、丁寧に拭き、子どもが心地よさを感じられるようにしましょう。



「自分が考える子どもの尊重」は、本当に「子ども」を尊重してる??

どのようなことが「子どもを尊重すること」と考えるかは、それぞれの保育者の成育や文化によって異なり、「自分が許せること」＝「子どもを尊重すること」となっているかもしれません。

子どもの尊重を考える時には、子どもの権利について国連が明文化した「子どもの権利条約」を見てみましょう。(※ユニセフが子ども向けに発行しているものもあります。)

「自分」が許せること

≠

子どもの権利条約

このような考え方で良いか

照らし合わせが大事



R5 小川晶保育ゼミ資料より作図

あそびの場面で、「〇〇はいいけど、△△はダメ。だって今日は大人の数が多いから」



「〇〇君の泣きは許せるけど、△△ちゃんの泣きはなんか許せない」

子どもの権利条約に沿った保育をするためには…

↓
子どもを尊重することについて学び、自分の考えの見直しや振り返りをしていきましょう。

子どもを尊重するための、 保育環境をどう整えるか?

1人ひとりを尊重しながら、集団の保育を行うのは難しいと感じることは多いと思います。

↓そこで…

子どもの「〇〇したい」に応えるだけでなく、保育環境を調整をすることで解決できることもあります。

- ・あそびの環境でコーナーを作る等して、子どもが自分で選び、遊べる環境にする
- ・1人ひとりや、発達に合った玩具を配置する
- ・子ども主体の活動になっているか振り返る
- ・日課の見直しにチャレンジする
- ・保育者同士の保育観をすり合わせる 等

「尊重」を考える時のキーワード 「保護」と「参加」

子どもの尊重や権利を考えることが難しいと感じた時には、保護と参加という言葉で考えてみましょう。

日々子どもとの関わりや環境が、子どもの一生ものの力（生きる上で基礎となる力）が育つものになっているかを考えることが保護。また、子どもが自らそこに加わって主体的に意見を言ったり、作り上げたりすることが参加です。

子どものための保護になっているか、また、参加できるように保護しているか、日々の保育を振り返ってみましょう。

受講者の感想

子どもが一生ものの力をつけられるよう、“保護”と“参加”を意識して保育を行っていきたいと思いました。

【リトルスター保育園

さつきちゃんのおうち | 先生】

一人一人のちがいがあつことを受け止め、その子の一番良い関わり、やり方で関わっていきたく思った。

【下新倉プライムスター保育園

M先生】

子どもの尊重について、子どものやりたい様にやらせるのが尊重するということではなく、子どもの意見が言えるように、参加できるように保護することが大事だと感じた。

【和光第2エンゼル保育室 K先生】